

## 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

## 第六編 朝鮮民族独立運動

## 第二章 抗日武装闘争の開始

## 第三節 武装闘争の発展

遊撃隊を強化し、抗日武装闘争を有利に展開させた献身的な共産主義者たちは、解放地区内で左翼偏向者とたたかいながら、対外的には民族主義者が指導する独立軍と反日中国人部隊との関係を強化するためつねに努力ををおこたらず、ひいては地主・資産家で反日闘争に参加するものともためらわず手を結ぶ方針をたて、優秀な隊員を既存反日部隊に派遣して遊撃隊と関係をもつよう忍耐よく工作した。そして一九三三年九月には、反日部隊とはじめて大規模な共同作戦を組んで東寧県城進撃戦争をおこなった。金日成の指導のもとに抗日遊撃隊と反日部隊一六〇〇余名が敵陣地(日本軍五〇〇名、「満洲」軍二〇〇余名、砲、戦車など現代的装備をもつ)に大攻撃を加え勇敢な戦闘のすえ勝利をおさめた。この戦闘以後、反日部隊は遊撃隊に対する認識を新たにし、左翼冒険主義的偏向者たちの急進的傾向を克服するうえでも一歩前進しただけでなく、東満において抗日遊撃隊と反日部隊間の対立は基本的に取りのぞかれ、広範な反日勢力が抗日闘争に結集されて大規模な戦闘が各地でくりひろげられ、抗日遊撃隊の活動領域もしいに拡大されていった。

日本帝国主義は政治的・軍事的に脅威を感じ、いわゆる「討伐」を強化する一方、あらゆる手段を講じて根拠地に対する攻撃を強化し、一九三三～三六年の間に兵力を五万から四〇万に増強し、一九三三～三四年の一年間だけでも約四万キロにおよぶ警備道路を新設し、また各種の密偵網を組織した。敵の攻撃が強化されている条件のもとで遊撃根拠地の守備防衛を強化させる一方、敵に対してより能動的な組織的攻撃を加えるためには、各地において遊撃戦を展開している隊員を統一された軍事的組織体制に改編する必要にせまられ、一九三四年三月、各地の遊撃隊を統合して人民革命軍を編成した。これは遊撃隊に対する共産主義者の統一的指導を強化し、抗日遊撃隊の戦闘力を強化させる一歩前進であった。

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】